

会 工 同 窓 会 報

発 行 所

福島県会津若松市
徒之町1の37

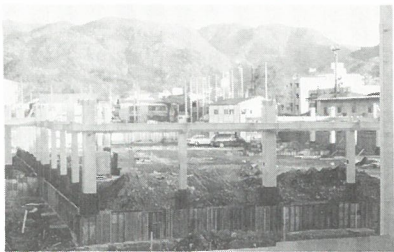
発行人 吉田一栄

平成五年度総会

平成五年十一月二十一日

校 歌

一、 嶺は秀づる磐石梯山
水は湛ふる猪苗代
これぞ乾坤秀霊の
精気鍾り成る處
明治三十七春なかは
礎堅くきづかれて
星霜ここに幾かへり
平和の覇者を育みぬ
三、 身には白虎の粹を享け
鶴を徽章に雄雄しくも
至誠勤勞一寸ちに
進む健児の意氣高し
四、 時つ嶺は峻しくも
寄せくる波は高くとも
これ奮闘の活舞臺
これぞ我等の天地なる



雑 感

会工同窓会会長

吉 田 一 栄



会工同窓会も百年に向け
て歩みだしている現状であ
りますが、創立百年には何
をどうすべきか、どの様な
姿にすべきか同窓会先輩諸
兄の英知をお借りして着実
に進めてゆきたいと考えて
いるところです。

現在母校では旧校舎の解
体も終わり、素晴らしいイ
ンテリア科・セラミック科
と情報技術科の近代的な校
舎も完成し後輩達は明るく
弾んで通学している姿が目
に浮かんで来ます。平成七
年度には福島県で国体が開
催されますが、会津若松で
は弓道・なぎなた・バレー

ボール・ソフトテニスの各
種の競技が開催されますが、
母校はバレーボールの練習
会場となるため新体育館
が現在建設中でありま
す。立派なものに完成すること
でしょう。

しかし、戦前からの懐か
しい、思い出が一杯詰まっ
ているあの講堂が危険建造
物として解体されますこと
は非常に残念なことであり
ます。これも新しい歴史の
始まりとなり遺憾とも仕方
のないことか……
講堂解体の跡地の利用に
ついては現在の所未定の様
ですが、同窓会としても百
周年の事業に向けてその跡
地利用など先輩諸兄の御意
見をお聞かせ下されば幸い
に存じます。

九十周年事業の一環とし
て、現在会工収蔵品の図録
の作成と収蔵品の保存を目
的として正式名「福島県立
会津工業高等学校所蔵作品
図録」として文化財図録と
染色型紙の二部作としてそ
の完成を目指しております
文化財図録の中には数多い
優秀な作品がありますが、
今回の発刊にあたり思いも
よらない名作が発見される
など、九十周年の伝統と歴史
のある会工であると感じし
ています。

百周年への序章

県立会津工業高等学校校長

及 川 利 彌



学校創立九十周年記念の
昨年、同窓会の皆様には、
格別のご支援を賜りありが
とうございました。その余
韻が残っている今年、本校
は百周年への第一歩を踏み
出しました。

顧みますと本校の創立は、
明治三十五年（一九〇二年）
でありますから、栄光と悲
惨、絶望と期待が交錯した
激動の二十世紀とともに歩
んできたこととなります。
福島県立工業高校として開
校し、県下唯一の工業学校
であったため、受験生は県
内各地はもとより遠く県外
からも訪れ、昭和十年頃の
入試競争率は平均十倍であ
ったといわれます。

憧れをもって入学し、誇
りをもって卒業していった
同窓生が多く、母校に寄せ
る熱き思いは今も変わりま
せん。

明日、大正から昭和の初
期まで、文部大臣や県知事
は頻りに本校を訪れていま
すし、大正五年には、昭和
天皇が皇太子の折、東郷平
八郎元帥恩徳で行啓されて
います。

このような事実は、当時
数少ない工業学校がいかに
重視され期待されていたか
を証明するものといえます。
本校創立当時から今日ま
での九十年は、第一次世界
大戦から第二次世界大戦、
ソ連邦の成立と崩壊など、
世界史上希に見る激変の時
代でありました。

日清・日露戦争から太平
洋戦争、そして敗戦、この
日を境にして日本は全く変
りました。悲惨な戦禍に
続く貧困と混乱の中から、
日本は奇跡的な復興を遂げ、

人々の暮らしは信じられな
いほど豊かになりました。
手工業から重工業の時代
を経てマイクロ・プロセッ
サーを基盤とするハイ・テ
クノロジーの時代となつて
います。

コンピュータの飛躍的発
達と電気通信網の拡充は高
度情報化社会を創り出しま
した。いまや先端技術を駆
使した機器があらゆる分野
に出現しています。日本語
ワード・プロセッサは「学
校を変える」と言われるま
での変革をもたらしました。
日本の産業構造の変化に
対して、本校の設置学科
も繊維工業科の閉科、情報
技術科の新設など今日的な
ものへと変貌して参りました。

世の中がいかに変わろう
とも、温故知新、旧い物事
をきわめ新しい知識や見解
を得ることは必要は論を
まちません。

あと九年で本校は創立以
来一世紀を迎えます。九十
周年記念事業並びに事業を
為し終え、百周年の序章と
いうべき時期にある今日、
伝統の上に安住することな
く、新しきものへと挑戦す
る気概も必要であります。

二か年にわたる校舎改築
工事も終了し、現在、第二
体育館の建設が健音高く進
められています。落成後は
文武両道を標榜する部活動
にさらに拍車がかかるもの
と期待されます。

同窓生の皆様には、時折
母校を訪れて頂き、後輩諸
君への叱咤激励を賜ります
れば幸甚であります。
皆様方の御健康と御活躍
をお祈り申し上げ、御挨拶
といたします。

近況報告

福島会工会長 星

北芝会工会長 松

下 貞 夫

武

平成4年、当会にも大きな出来事がありました。一つは、最初の定年退職者が出たということです。今後何年かにわたり、毎年60才到達者が出るようになるものと見て、会として大変寂しくなり、OBとOBとでも会には可能な限り参加していただくことで繋がりを持ち続けたいというのが会員全員の願いでもあります。

もう一つは平成2年入社会員の中から「東芝学園」入学生が出たことです。その名は渡部修君(機械科卒)。

「東芝学園」というのは名前のとおり、東芝が、優秀な人材を育成しようと設置している教育施設で、関係会社にも門戸を開いているものです。

ここは、1年間の勉強のち受験しますが、相当の頑張れ！

東京会工会副幹事長

金子昌輝

私は昭和32年建築科を出て、煙りで煤だらけになりながら、八時間も掛かって東京に出て来ました。

当時の窓からの景色は、見晴す限り田園風景のみ。夜行列車の時などは室内の灯りの届く3メートル以外は見えず、真暗闇でした。どこ迄もレールと車輪の軋むガタンゴツンの音が聞こえるだけで、寂しい限りで余計に長く感じられたものです。

それでも東京に来た。江戸へ来たと感じた時に、妙な感慨に耽り今考えると、可笑しい話ですが、多分純粋な気持ちから「これが東京か」となにか急に自分が

めて上野の精養軒で総会に参加した時はさすがに感激しました。

当時の会長は佐藤勝次さんでした。在学中に何度かみえられていた方で覚えていましたが、知らない人達や大先輩ばかりで、話す相手もなく不安ばかりでした。

一人で片隅でぼつんと会食をしていました。勿論、田舎の思い出話や家の事等郷愁に浸る雰囲気でもありませんでした。

それでも大堀孝雄君等と一緒にになり、自分なりにそのうち後輩も入ってくるだろう、会にも馴れて面白くなっていくだろうと参加して来ました。

三年目の時、後輩が(大島諒三君)修学旅行で上京して来ました。背広もなく、兄から貰った当時流行の表と裏が使える古いジャンパーを着て、上野のじゅるに出迎え、クリームソーダを馳走して格好をつけた事もありました。今大島君と話をすると大笑いします。

そんな会工会の長い歴史がいろいろの思いを残しながらも、世の中の発展や移り変わりのなか、会員の意識が薄れて、集まりも悪く、調べ記事を通じて県人会で平成七年に福島県体が開けるのです。

佐藤会長から井上真市会長へそして現在は室井忠六会長へと引き継がれ、活性化、発展の為にいろいろ工夫され、努力されておりますが、同窓生、同郷の意識自体が問い直されて時代の流れには抗し難く、無理に参加させるわけには参りません。

私もいづらかお手伝いさせて頂き、執行部の苦労が解るのです。

何度か会津での総会にも出席しましたが、同じ悩みのようにです。

う埋めるか。当然会工会も同じ悩みを持ち続けている由です。

しかし伝統校はそれなりの星霜を重ねて来た重みが感じられた。以上の報告が、あつたが、いよいよもつともな話で、来年の悩み、課題である。今年五月十日に多摩川辺りにて大いも煮会を開催。イベントテーマをあけての総会、親睦に重点を置いた総会等様々です。

又毎年開催、隔年開催、参加者も三百人、百五十名前後といろいろで執行部の労を多とするところが多い。各支部に共通してかかえていく課題は住所変更後のフォローアップがうまくいかず住所不明で戻るケース、返信応答のないケースが多いこと。若年同窓生の動員をどのように克服するか、頭を痛めているところとです。又旧制卒業生と新制卒業生とのギャップをどう

行事を知って、又お互いの消息を知って集まって来られる方も増え、この活動が停止する様な事のない様責任は重く大変です。

我が会工会ばかりが同窓の仲間意識が無くなったのか、他の学校はどうなのか、最後に参考までに県人会で調べ記事を通じてみます。平成七年に福島県体が開けるのです。

江川 正

坂下会工会の紹介と年行事を兼ね近況を書きたいと思ひます。

先づ、この会は会津坂下町在住者の同窓生にて組織されております。

当初昭和三十一年頃、坂下町西西部会工会(会津坂下町柳津町、湯川村、新鶴村)の名称にて発足いたしました。

その際専務理事の三浦和三さん、在任の高等中学校同窓会も活動しており、そこへもお願いしようという事になりました。

近畿会工会専務理事

大島 武二

昨年、母校創立九十周年記念式典に御招待を頂き厚く御礼申し上げます。

一年後の今日、日本経済は円高、冷夏長雨の影響で、依然足踏が続き回復の見通しが立たず、同窓会の諸兄も各分野で、この不況を乗り切るため知恵を絞る御活躍の事と察します。

さて、由緒ある関西の地に、数多くの旧制中学校の同窓会は、殆どが近隣の出身母校で占められ、当地で運営している我が近畿会工会は異色の存在と言えます。

これは、同窓生がもつ県民性と郷土愛、更に歴史と伝統ある母校を誇りとする意識が相乗し、母校の担当先力によるものと考えられる。その昔、近畿会工会は諸先輩により結成、運営されて来たが、事情により中断され、休眠状態が続いた。

合格記念品の贈呈を行ってあります。(平成五年四月十八日入学) 又今年には会工高坂下地区在校生、父兄会の冬は親子バレーボール大会、秋は親子ソフトボール大会に招待を頂き、青年部を中心に楽しく試合を行い、終了後は全員にて友好を深めました。

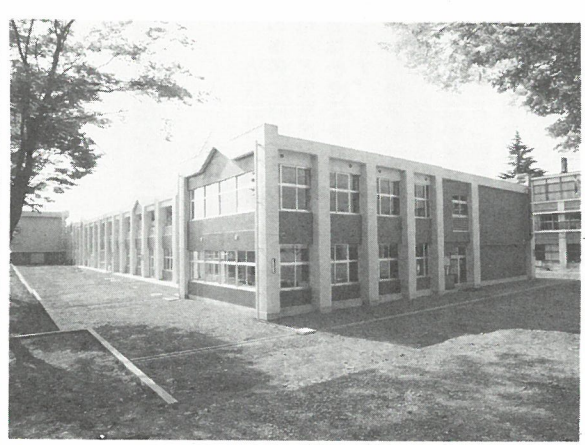
去る昭和六十三年、現会長若林氏が中核となり、近畿会工会の復活をはかり、関係者の協力を得て、総会を作り、又、会員拡充のため、大阪、京都、兵庫地区に夫々役員を設け展開した結果、大正十三年卒業生を筆頭に、昭和六十三年卒業生まで、会員百五十名の存在が確認され、名簿作成の上、全員に配布した。

然し、年毎に総会、忘年会、役員会への参加者は減少し、過去三年間の実績は平均四十名から五十名が固定メンバーとなった。特に若年層の参加率が低い要因を分析推定すれば、年令差、共通話題の不足、同級生の不在などが考えられるが、多様化になった社会現象の現われとも言える。

会の目的は、会員の相互親睦を図り、母校の発展を食事を催しております。最後になりましたが、今後共会員親睦を第一として母校の隆盛を願ひ活動して参りますので本校同窓会役員皆様より、ご指導、ご鞭撻の程をお願いして近況報告といたします。



(株) HOYAより寄贈された庭木



平成5年3月に落成した南2棟校舎

期することになり、このため、会員が存在する限り、会を風化させることなく、存続すること役員会合は合意している。

又、会の財源は、年会費

会工高同窓会諸兄、益々御健勝にて、御活躍のことと御慶び申し上げます。偕と東海地区の近況を御知らせ致します。本年三月二十日待望の福島空港が開港され、名古屋空港からは、七十十分の空の旅で結ばれることになりました。就航機は最新鋭のターボプロップジェット旅客機、フォッカ50、五十六人乗です。毎日名古屋、福島空港を一往復して居ります。

十月は二往復に増便されました。私も、お盆に墓参のため帰省の際、搭乗して参りました。小型機につき、若干客席が狭く「揺れ」が多感じられましたが、好天候に恵まれ、日本国の一アルプス、甲府盆地、日本一の富士山や、中禅寺湖等が、パノラマの様に眺められました。福島空港からはリムジンバス(会津バス)が、高速道路を通り、会津

若松駅、經由にて東山温泉まで運行されて居りました。又、今年四月一日、名古屋市内に「福島県名古屋連絡事務所」が開設されました。現在は小泉所長以下職員二名で、観光、企業の誘致、及び産業物産展等、母県と東海地区の一層の交流増進の為頑張つて居ります。東海福島県人会も今年十八回目を迎へ十月十七日、母県より佐藤知事以下関係幹部が来賓として来名され、会員、家族を含め、二百五十余名が参加して総会を開催し、盛会でした。東海会工会員も多数、県人会で活躍して居ります。会津大学の学生は他県出身者が多く、その中、愛知県出身者が、一番多いと、承つて居ります。諸兄姉、福島空港を利用して、名古屋への御来遊を私共一同お待ち申して居ります。皆々様の御多幸を御祈り申し上げます。

一人、千円を徴収しているが、殆どが事務通信費で消え、余裕のない運営で事務局長は苦心している。最後に、各同窓会の発展を祈る。

以上

佐瀬 一信

若松駅、經由にて東山温泉まで運行されて居りました。又、今年四月一日、名古屋市内に「福島県名古屋連絡事務所」が開設されました。現在は小泉所長以下職員二名で、観光、企業の誘致、及び産業物産展等、母県と東海地区の一層の交流増進の為頑張つて居ります。東海福島県人会も今年十八回目を迎へ十月十七日、母県より佐藤知事以下関係幹部が来賓として来名され、会員、家族を含め、二百五十余名が参加して総会を開催し、盛会でした。東海会工会員も多数、県人会で活躍して居ります。会津大学の学生は他県出身者が多く、その中、愛知県出身者が、一番多いと、承つて居ります。諸兄姉、福島空港を利用して、名古屋への御来遊を私共一同お待ち申して居ります。皆々様の御多幸を御祈り申し上げます。

以上

郡山会工会事務局

金 田 寛

郡山会工会は昭和十年頃
発足し、一時中断昭和六十
一年に復興し、会員も一〇
〇余名と発展を続けて参り
ました。

昨年十月二十四日、郡山
会工会々長として、七年間
献身的なご活躍いただきました
故小松文次会長の病
氣のため他界されました。
心より、ご冥福をお祈り申
し上げます。

後任として、田代副会長
が、代行として会の運営に
当たり、本年度総会におい
て会長に就任されました。
田代会長は昭和十三年に
染織科を卒業され家業の田
代染工場を会長として、若
き頃の気風と情熱を燃やし
続けておられます。副会長
後任として宗像次男氏(昭
和十六年機械科卒業)が就
任されました。

●活動内容について
●定期総会：毎年五月に開
き、総会後、懇親会に移り
ます。毎年会工同窓会より
来賓として会長又は会工教
諭風間先生が出席され、同
窓会の活動内容を詳しく報
告いただいています。

会員は戦前からの先輩の
方が多く出席され(五〇名
位)後輩との交流は勿論、
その当時の学校生活など貴
重な話に花を咲かせます。
又、職種も幅が広く相互の
情報交換や協力面にも一役
かっつていて、大変有意義な
ひとときとなります。特に
印象に残るのは、先輩後輩
の溝がなく親しく交歓でき
る風景は和やかで、「先輩の
心遣いのよさ」「後輩が慕
う心と心の交流が何よりの取
得である」と思います。

●役員会：毎年三回位開
き、会の運営、会計、会員
募集、会員の動向、など情
報をもとに話し合い、確か
めることにしています。
●野球応援：昭和六十三
年に田代会長より寄贈され
た郡山会工会の応援旗をア
ルプススタンドに掲げ毎年

●今後の課題
この会を魅力あるものにす
るための会の運営、活動面
組織等に対する工夫が必要
である。他県・他支部から
のお知恵を拝借できれば幸
いです。

以上郡山会工会の概要を報
じります。

各科紹介

建築科

主任 関根敬次
創立90周年式も終え、100
周年へ向け新たな一歩を踏
み出した今年は建築科が設
置されて45回目の卒業生を
迎えようとしています。こ
れまで輩出された卒業生は
県内外でそれぞれの分野で
活躍され、会工建築科の伝
統の重みと感じます。しか
し、昨今の生徒を見ると建
築に対する熱い思い、夢が
希薄に感じられます。何と
か「建築」のもつすばらし
さを一人でも多くの生徒に
理解してもらうために努力
しているところです。多様
化している現在、自分の進
路についてもはつきりした
ものがなく漠然としていま
す。そこで、われわれ保護
者と地域社会の連携を密接
にして次のことを目指して
います。

一、保護者の願いや期待を
生かす学校。
一、地域の生徒の教育に貢
任をもつ学校。

このことから、生徒の個々
の学力向上を図り、一人ひ
とりが将来の目標に向けた
自己教育が育成されること
を願っています。

今年の進路の希望状況は
大学進学8名、公務員3名、
専門学校5名、就職24名と
なっています。最後に、今
後も同窓生各位の変わら
ぬご指導とご支援をよろし
くお願い致します。

電気・電子科

主任 古河 憲治
小沼知久平
晩秋を迎え、嶺南の雪が
降り、白鳥が望まれ、猪
苗代湖には白鳥が遊ぶ頃と
なりました。

盛大に挙行された創立九
十周年記念式典から、一年
が経過いたしました。一
心新たにスタートした、
式典以降を簡単に振り返っ
てみたいと思います。

平成五年一月二十九日会
津地区工業高校生徒研究発
表会が、本校を会場として
行われました。電子科三年
生が両科を代表して、日頃
の学習成果を、「ベシシッ
ク」制御パソコンで文字を
書くのテーマ、立派な発表
を行いました。

四年度進路状況は、深
まる経済不況の中、心配さ
れましたが歴史と伝統・先
輩方の御助力等により、ま
ずまずの成果を得ることが
出来ました。

四年度卒業生動向

卒業生		就職者		進学者	
区別	卒業生	就職者	進学者	その他	
電子科	40	9	9	16	4
電気科	38	15	10	8	2
科					3

平成五年度の電気・電子
科のスタッフは、異動があ
りませんでした。
今年度は、繊維・工芸・

窯業科の旧校舎跡地に新校
舎が完成し、電気・電子科
所属の製図室が移転しまし
た。六年後は、キヤド装
置が二十台導入されるこ
とになっています。

今年度の進路状況は、押
し寄せる不況の波にさらさ
れ厳しさが感じられました。
しかし、電気・電子科に
おいては、いわゆる有名企
業への内定者は減少しまし
たが、進路者を含めなんと
か今年中に進路決定出来
るものと思われま。

今年、校外外とも学科
として大きな行事はありま
せんでした。

生徒・職員一同気持ちを
引締め、一層の前進を心に
誓いながら、先輩諸氏の御
健勝と御活躍を祈念いたし
ます。

インテリア科

主任 江花光泰
前年度でもお知らせし
たように、本年4月には実
習棟第二期工事完了しまし
た。すべてが新しい実習室に
なりました。電子科三年
生が両科を代表して、日頃
の学習成果を、「ベシシッ
ク」制御パソコンで文字を
書くのテーマ、立派な発表
を行いました。

四年度進路状況は、深
まる経済不況の中、心配さ
れましたが歴史と伝統・先
輩方の御助力等により、ま
ずまずの成果を得ることが
出来ました。

四年度卒業生動向

化学工学科

主任 荒井忠夫
当科の生徒は一年から三
年まですべて男子で総数百
二十一名です。それを指導
する教師陣は、ホームルー
ム担任をお願いしている普
通科の先生が三名、専門教
科担当の教員が七名の計十
名です。

生徒達は、専門教科の座
学で「工業化学」、「化学工
学」、「設備管理」など、将来
化学工業界に進む者として
身につけるべき基礎・基本
を学ぶと共に、三年間の実
験・実習を通じて、化学・
機械・電気および情報の各
分野について多くの経験を
積んでいます。

特に、三年生の時におこ
なう粉石けん製造プラント

の試行を進められ、生徒た
ちは二十名のテーマを設定
し研究、制作に入りました。
すが「人気家具の調査」、「C
I計画大作戦」、「マイクロ波
加熱の木材加工」、「店舗
フリース」など苦難に
みちながらも意欲満々のテ
ーマ、物事を考える力が育
つてくれればと願っています。
教員の側からは、今年
度、インテリア研究会の全
国副理事長校となり、8月
には、全工研地区大会が
本校主管で開かれ東北、北
海道各地の先生方が集まり
「新教育課程編成と各校の
特徴(山口T)」、「インテリ
ア系学科における情報技術
基礎(矢口T)」、「研究発表で
「NCによるSCREEN
の製作(岩淵T)」、「室内環
境実験(風間T)・全国大会
でも発表」など多くの試行
状況・成果が発表され、有
意義な大会となりました。
今後の教育活動に生かして
いきたい。

進路状況では、他の例に
もれずきびしい状況です。
他校生に負けない学力と社
会常識・健康など心身共に
すぐれた人材育成に一層の
努力が必要のようです。諸
先輩のご支援をお願いいた
します。

現在の生徒の実態からみて
今日のような不況下でも希
望の処に就職できるのは、
全国各地で活躍されている
先輩諸兄のおかげであると
関係者一同感謝いたしてお
ります。残り十六名は、公
務員志望および進学志望で
す。

最後に、平成二年度以降
の当科職員の移動について
お知らせ致します。

セラミック科

主任 斎藤四志男
創立90周年も終え、本年
度は創立100周年に向けての
第一歩の年となりました。
セラミック科は今年度の
入学生で第8回生を迎え、
平成7年には第10回生を迎
えることとなります。

本年4月には社団法人
「日本セラミック協会」より
「セラミック化学」セラミ
ック材料」セラミック技
術」セラミック実習」の副
教材が完成し、学習活動
に大きな成果が期待されま
す。

また昨年度より継続の校
舎改築工事も3月末に完成
し、セラミックの全実験実
習室と他の部屋一、二〇〇
㎡の近代校舎において、
快適な授業を行っており、
生徒も落ち着いた学校生活
を続けております。今後は
新校舎に対応できる新しい
実験装置の導入に頑張りたい
と思いますので、先輩諸
氏のご協力宜しくお願い致
します。

最後になりましたが、今
年度はバブル経済の崩壊に
より、進路関係も厳しい状
況になりましたが、全員合格
とになりました。これも各企
業における皆様の格別な

情報技術科

主任 久家克士
昨年の創立九十周年の会
工の歴史に比べればよちよ
ち歩きの幼児に似て、歴
史の浅い情報技術科が、平
成五年三月に第二期生を社
会に送り出し、ほんの少し
社会に貢献できるようにな
りました。今までは、職員
を迎えるだけでしたが、今
年度は二人の先生をお送り
しました。自から福工のエ
ィスピッチャーとして活躍
し、本校では野球部の部長
として、また、情報技術科
の第一期生として活躍なさ
れた片平崇之先生を清原情
報高へ、サッカー部監督と
して、生徒と一緒にプレー
出来る若さや技量をもち、
生徒から兄貴のようになら
れた鈴木 稔先生を喜
多万工にそれぞれ、お送り
しました。かわって本校の
OBで四十七年電子科卒業
の菊地 寿雄先生を福工よ
り、山大学部情報工学科
卒業の今野 澄夫先生を新
採用で新しく迎えました。
一応の施設・設備も整い器
はできましたので今後は中
身の充実職員一丸となり
当たっていききたいと思ひ
ます。昨年度より更に情報関
係の求人状況は悪化し、特
にソフト関係の求人は数社
しかありませんでした。ま
た、各社共倍率が高く、厳
しい採用試験のハードルを
乗り越えることがなかなか
できませんでしたが、一方民
間企業就職を避けて公務員
試験に例年になく殺到しま
したが、こちらも、そうあ
まはなく半数以上の生徒が
失敗しました。日常の努力
の不足を痛感した生徒も多
かったと思います。来年度
の景気回復をせつに望むと
ともに真に実力のある生徒
の育成に職員一同心をひき
しめて頑張っていきたいと

機械科

主任 吉田孝男
生活に目標を持って努力
を続けよう
ほんの三・四年前まで続
いた好景気がまるで嘘のよ
うに昨年あたりから急速に
不景気になり、たび重なる
国の財政・金融政策にもか
かわらず、一向に出口が見
つからないほど深刻な状態
に陥っている。最近の新聞
ではNNTが一万人の合理
化とか、日本経済の基幹産
業である鉄鋼関係では新日
本製鉄や住友金属工業等が
数千人単位で削減計画を報
じっている。このような大変
な不況の中で就職試験を受
けるのであるから、相当に
厳しい結果の出る事が予想
された。しかしその影響を
最小限度に食い止めること
が出来たのは幸いだった。
就職試験に際し、生徒本人
の努力は言うまでもないが
それぞれの職場で働いてお
られる先輩諸兄の陰に陽に
多大のご支援があったこと
も忘れてはならない。実際
に適切なアドバイスを受け
た人もいるだろうし、ある
いは、直接にそうした接触
はなくても、その職場で信
頼され、会津工業高校生で
あれば心配ない」という状
況もあつたかも知れない。
創立九〇周年という重みは
まさにこうした信頼の積み
重ねであるといつても過言
ではない。諸君一人一人が、
それぞれの職場や上級学校
で頑張っていくことが、後
輩の為に非常なプラスにな
るのである。これから卒業
までの期間を有効に利用
し、目標をもって頑張つて
ほしいと思つている。目標
もなく一日一日を無益に過
ごすならば、一瞬のうちに
終わってしまうだろう。ま
さに「光陰矢の如し」であ
る。今年の四月、県立会津大
学が創建された。全国でも

思います。会工情報技術科
のPRと、ご指導ご援助を
よろしく願ひいたします。

報告と致します。

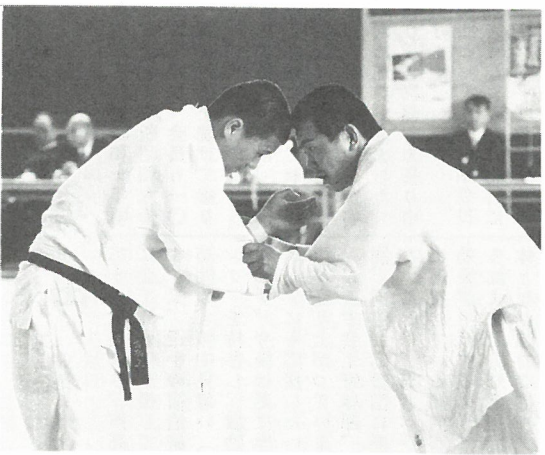
各部紹介

弓道部

顧問 千葉 聡
白川 克明
我が弓道部は、毎日おそくまで、顧問の千葉先生の指導で練習に励んでまいりました。その結果、好成績を残すことができました。現在、三年生が引退し、二年生八名、一年生七名で人数は少ないけれど、楽しく練習しています。

柔道部

顧問 高原 啓二
渡部 哲
小沼知久平
部員数総数16名という和気あいあいの部員達。厳しい練習を経て、ようやく自信をつけた一年生。そして部員の心が一つになり、各大会へと闘志を燃やし、今年の県インターハイはベスト8に入りました。先輩達のインターハイ出場という成績を目標とし、この伝統ある会柔道部を引き継いでほしい、しかも平成7年の国体では、会津の柔道競技の会場になります。



県内企業……東北電力、オリオンバス光電子、モトローラ、日曹エンジニアリング、リズム工機、北芝電気、関東電力工事、三菱伸銅、等々
県外企業……日野自動車、東北発電工業、石川島造船化工機、住友金属鹿島、東洋電業、湘南デザイン等々

最先端の設備や学習環境を備えている。地元の工業高校である本校は、大変な地の利を得ている。一刻でも早い入学が期待されている。今年の機械科の主な進路状況(一〇月三〇日現在)
大学進学……日本工業大学
公務員……警視庁、郵政外務員
専門学校……東北電子専門学校、郡山情報ビジネス専門学校、千代田工科芸術校等

スキー部

顧問 山内 英二
茂木 利幸
平野 純一
勝負は勝たなくてはなりません。その高い目標に向かって、一人一人の努力と全員の心が、高原先生のご指導の下で開花することを願って、上位入賞を目指してがんばって行きたい。



陸上部

顧問

高橋 盛久
近藤 正俊
横山 永哉
我々陸上部は毎日、明るく、楽しく、元気良く陸上競技場で練習に励んでいる。今年は大事な大会で思うように力が出せなくて涙を流したシーズンであった。そして、三年生が引退し部の再スタートである。

社会部

顧問

佐々木 修
白岩 孝一
東瀬 紘一
社会部の本年度の活動は外部の展示会・発表会への参加、及び夏季休業中の合宿などがあります。

サッカー部

顧問

渡部元一郎
斎藤 洋
今年、インターハイでの地区大会は、接戦があいつぐなか決勝は、喜多方高校にPKで勝ち悲願の優勝をなしました。県大会では、一回戦、郡山高校と対戦。前半いきなりチャンスがとずれたが得点ならず、



JRC活動

顧問

小関 栄助
東瀬 紘一
矢口 義徳
JRC活動は昭和三十年代より行われていたが、今年に入り創立当時に近いような活発な活動になりました。

野球部

顧問

栗城 一郎
村山 彰一
若林 亨
我が野球部は、昨年夏の大会、ベスト8に残り、すばらしい成績をおさめた。三年生が引退し、一、二年生は昨年の成績をこえようとして、夏の練習に耐え



剣道部

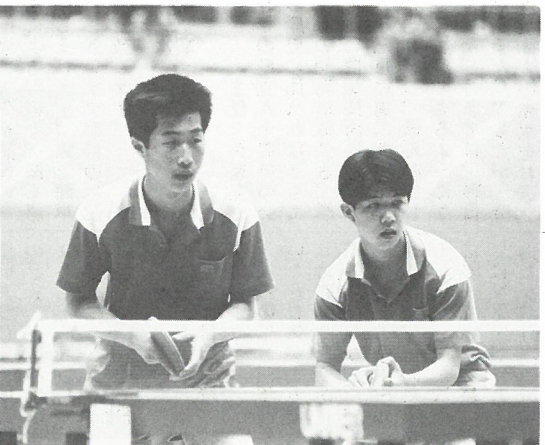
顧問

佐藤 善久
青井 勝
我々剣道部は、二年生五名、一年生九名、計十四名で日々練習に励んでいます。今年は、去年実力はあつたので春休みには東京、夏休みには新潟で行なわれた、強化練習試合及び大会に参加しました。そこで、他県のレベルの高い高校生達と数多くの試合をこなしてきました。そして、

ボクシング部

顧問

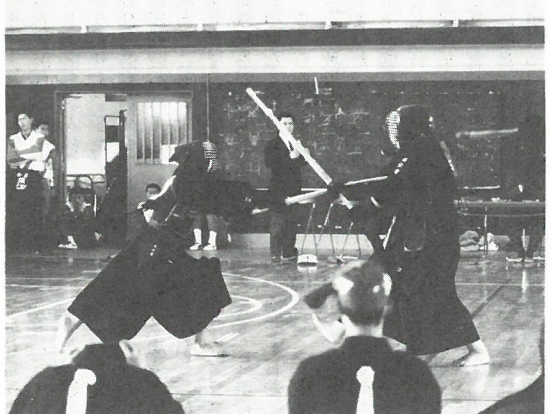
長谷沼 徹
関根 敬次
現在、二年生が4人、一年生が6人の計10人で練習に励んでいます。日光市で行われた全国インターハイに2名が参加しました。福島県勢の活躍(4階級で8強入り・フェザー級準優勝・フライ級3位)により、一躍注目を集めたが、同じチームで参加できたことは、今後の目標であり励みになりました。



卓球部

顧問

遠藤 良市
小林 昭二
現在、我が卓球部は二年生七名、一年生十三名、計二十名で例年になく練習量を増し、インターハイ地区



指したい。
そして、引退した先輩方にも卒業するまでにいろいろと教えていただき、さらに一人一人のレベルアップをはかり、アドバイスを大事にし今後の大会に向け死力を尽くしたい。

顧問 渡辺 源孝

バレー部

顧問 阿部 光
須田 昌義

今年の会工バレー部は、
 一年九人、二年十五人計二
 十四人と部員数が多いので
 充実した部活動がおこなわ
 れています。今年のチーム
 はまず「会津大会優勝」と
 いう目標を持ち練習をおこ

顧問 末永 充

新田 匡浩
三原 敏男
我々バスケット部は、新人部
員十数名を含めて、日々練習
に励んでいます。

挑戰

めてしまては成績はも
 ちろん、体力、技術の向上
 は望めません。もう一度気
 をひきまてまた良い成績
 を出せるようにしたいです
 また一人一人の体力、技
 術が水泳部は、一年生四
 名、二年生六名、三年生八
 名の計十八名の部員で毎日
 泳力をつける練習に励んで

顧問 紺野 正博
 長崎 敏秀

顧問
佐々木

に望めば、もう一度
をひきまねた良い成績
を出せるようにしたいです。
また一人一人の体力、技
術が足りない上に身長も低
いという欠点もありますが、
これは練習と気力でカバー
していきたいです。

我が水泳部は、一年生四
名、二年生六名、三年生四
名の計十八名の部員で毎日
泳力をつける練習に励んで
きました。昨年までは、県
総体、県インターハイ、新
人大会とそれぞれ二年連

顧問 樋口 高夫

これからの予定としては美術部展をのこすのみとなった。

これからの美術部はもつと根性をみせたい。

顧問 斎藤四志

の良し、反線を死に求全の
インターハイで団体優勝
きるように一人一人が自
をもつて練習しチーム一
となつて頑張つていき
と思います。

平池

念に思います。

今年の会津地区の新人戦大会では、団体が二位、個人ではダブルスが三位に入賞し、あわせて三つのペアが県大会に出場することができましたが、シングルスは一人も出場できなかったことが残念でした。

これからの大会にむけて基礎から練習を始め、全体的にレベルを上げて、もっと多くの部員が入賞できるようにテニス部全員で頑張っていくと思っています。

顧問 松本 善

れて、みんなで喜びました。それから、一年間の内で一番長く山に入っている夏山台宿を行きました。何時間歩き続けて、とても貴重な体験をいろいろすることができました。それから、新人地区大会があり、磐梯山や猫魔ヶ岳に登りました。そして、新人県大会では、安達太良山に登りました。この大会では、なんと、女性で初めてエベレストに登った田部井淳子さんの講演を聞けて、とても感動しました。あと冬山台宿と春山台宿を行います。問題点を解決して、これから山に登っていききたいと思います。

顧問 佐藤

ことができました。また、国体の強化選手に選ばれ、色々な強化合宿に参加でき、貴重な経験をさせていただきました。

今後も、今年のよい経験を生かし、精神面を含め、いままで以上に実力をつけられるように努力していきたいと思います。

最後に、自転車競技を本気でやってみたいという方は、是非、お気軽に声を掛けて下さい。待っています。

中野浩一選手を目指します。

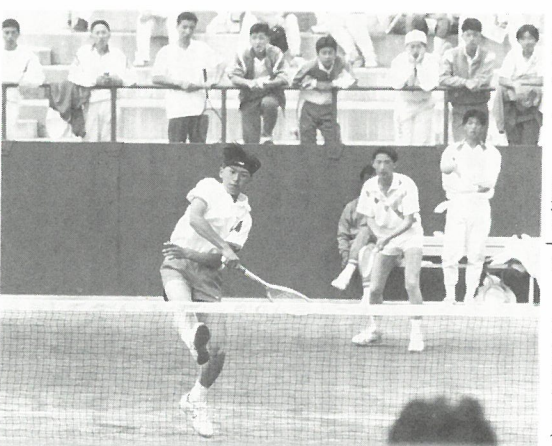
顧問 小関 栄助

イバルなどに参加して、一人一人レベル向上を目指し練習をしています。

地区吹奏楽コンクールでは見事、金賞でしたが、大会のレベルではもう一歩というところでです。

毎年行なわれる定期演奏会では、先生方、OBの方などの協力で盛大に行われております。

これから、心のハーモニカを合言葉に、会津工業の名に恥じぬよう頑張りたいと思います。



平成五年度の会工

福島県立会津工業高等学校

教頭 半野 幸雄

「人事異動」

会工同窓会会報第十八号の発刊にあたって、皆様の母校「会工」の教育活動の一端をご報告申し上げます。本校では、情報化社会をリードする我が国の工業界を担うべく、「二十一世紀の技術と生きがい」をねらいとし、その具現化のため及川校長を頂点に、教職員一丸となって、育成・指導に努めており、生徒たちは、これに応え、学習に、部活動に励んでおります。

「転入者」

推薦入学は、目的意識が明確で、適性があり、成績優秀で人物が優れていることを条件として、出身中学校長の推薦を受けた者の中から決定されます。平成五年度におけるM、E、C、D、A、J、In、Fの八学科推薦入学による受験者は一二四名で、合格者は九十八名、その平均倍率は一・二七倍でした。内、女子の合格者は一一名でA、J、Inの各学科に入りました。

「退職者」

佐々木健臣教諭、猪井新一教諭、渡部光正主任実習講師、笠井英夫主任実習講師、小西章講師、渡部常好講師、上田彬講師

「転入者」

川俣高↓小林憲一教頭、若女高↓片平寛分校長、矢吹高↓白川克明教諭、喜多方工業高↓村山彰一教諭、喜多方商業高↓三原敏男教諭、川俣高↓松本靖弘教諭、四倉高↓栗城一郎教諭、喜多方工業高↓笠井英雄教諭、福島工業高↓菊地寿雄教諭、福祉事務所↓渡邊延幸主事

「新採用」

近藤正俊教諭、斎藤洋教諭、渡邊元一郎教諭、若林亨実習助手、今野澄夫実習助手、山本清三講師、上田彬講師、増田令子講師

「部活動」

今年度も、高校総体津地区大会と高校野球会津地区予選の優勝と運動部の活躍が目立ち、文武両道の伝

統を一層積み重ねました。高校総体体育大会会津地区杯を四年連続で受賞できました。県高校総体で好成績を上げ、東北高校総体を経て、全国インターハイに出場したのは、陸上競技、バドミントン、弓道、体操の各部と自転車同好会でした。これに続く国体に繋がる県総体・東北総体においても同様に活躍しております。

野球部は夏季の大会で順々決勝で、双葉高校に破れましたが、ベスト八まで駒を進めることができました。この大会に郡山会工の方々が応援に駆け付けて頂きました。ありがとうございました。さらに、これから行われるスキーの高校総体、県大会での活躍も期待できそうです。文化部関係では、運動部ほどの華やかさや躍動性は見られないのですが、演劇部が数年前より復活しました。音楽部（吹奏楽委員会）の定期演奏会が例年より市会館で開催され、盛会のうちに終了しました。なお、音楽部は「ふくしま国体」冬季大会の祝典音楽演奏に推薦されています。今年度分として、イングリッシュホルン等約八百万円は

どの楽器が国体準備委員会から提供されました。なお、来年も提供されるようで、全部で一千万円を超える額になりそうです。進路状況等に関しましては、係りから繊細なご報告がありますので、割愛させていただきます。

四日(日) 京都市半野教頭及び梨子本先生、東京会工会・六月二十七日(土) 東京都吉田会長、松川さん、及川校長及び小林教頭、梨子本先生、坂下会工会・九月十日(月) 会津坂下町吉田会長、及川校長及び教頭、各部長、進路指導等の各部長の十名。なお、昨年の創立九十周年記念行事等につきましては、ご協力に感謝と御礼を申し上げます。同窓先輩の話の中で、毎回話されますことは、若い同窓の諸君の参加者が少ないこと、卒業生がなかなか箱根の山を越えてくれないこと、と云うことでした。

新聞によると、県内の高校生の就職内定率が10月中旬で50%と報じられていましたが、本校では80%が内定しております。これもひとえに九十年の伝統と、卒業生の方々のご活躍のおかげだと感謝しております。現在の内定者は会津地区が68名、会津以外の県内が26名、県外が97名となっております。

今年度の就職関係の特徴としては、求人企業数の減少、とくに富士通など大手企業の求人取り止めが増加し、昨年度の二、三〇社の3割減で一、六七〇社の求人となりました。また、従業員の削減の企業が多いなか、各企業とも求人数をかなり絞りこんでおり、昨年度の1/2程度になっております。それでも企業就職希望者の8倍の求人企業があり、12月末には、就職希望者全員が決まるだろうと思っております。

円高等による経済不況の影響からでしょうか、公務員、専門学校の希望者が増えております。とくに公務員はどの倍率が高く、かなり難しい状況です。合否の結果の分かるのが遅いので、失敗した生徒のフォローが大変ですが、全力をつくして良い方向にもっていきたいと思っております。大学進学希望者は40名おり、推薦選考試験が進行中でありますが、現在、日本工業大学4名、駒沢大学1名が内定しております。進学補習・模擬試験などに真剣に取り組んでおり、良い結果が出ることを祈っております。

来年度は、就職・進学・公務員ともに、さらに厳し

「厳しい就職前線」

進路指導主事 稲田 盛夫

新聞によると、県内の高校生の就職内定率が10月中旬で50%と報じられていましたが、本校では80%が内定しております。これもひとえに九十年の伝統と、卒業生の方々のご活躍のおかげだと感謝しております。現在の内定者は会津地区が68名、会津以外の県内が26名、県外が97名となっております。

同窓会事業報告

平成四年十一月六日(土)	創立90周年、分校40周年記念式典
十一月十一日(木)	創立90周年、分校40周年記念行事・同窓会美術展(市文化センター)
十二月六日(日)	会工同窓会総会(割烹・萬花楼)
十二月十九日(火)	創立90周年、分校40周年記念行事・実行委員会による役員会
一月二十二日(金)	創立90周年、分校40周年記念行事・実行委員会解散式
一月二十九日(金)	会津会工会新年会(割烹・米熊)
二月十四日(日)	建友会に会長ほか2名出席
二月二十七日(土)	会工同窓会入会式、会長ほか8名出席
三月三日(水)	名誉PTA会長・井上四郎氏告別式、会長ほか1名出席
四月六日(火)	平成5年度歓迎会、会長ほか2名出席
五月十五日(土)	郡山地区会工会総会、会長ほか1名出席
六月六日(日)	近畿会工会総会、半野教頭ほか1名出席
六月六日(日)	東海会工会総会、吉田会長ほか1名出席
六月二十七日(日)	東京会工会総会、吉田会長・学校長ほか5名出席
九月十日(金)	坂下地区会工会総会、吉田会長・学校長ほか10名出席
九月十六日(木)	会工同窓会役員会(学校応接室)
九月二十日(日)	マイコン用プリンター寄贈
十月十八日(日)	南1棟・南2棟中庭に庭木を寄贈

